



年間の可燃ゴミ処理量は、881トン

首藤 正光



高校跡地の利用は

質問

三重高、緒方工は、2年後に廃校となるが、市としてどのような対策を検討しているのか。

答弁 企画部長

両校とも市街地の比較的、利便性の良い場所に位置し、

その利活用は、行政・地域・民間など、さまざまなケースでの活用方法が考えられます。

市としては、まず行政への財政負担を与えないような方法で検討したい。

質問

県との話し合いを早期に行ってほしい。

今後の対策は。

答弁 企画部長

更地の状態であれば、活用の選択幅がかなり広がります。

建物を利用すれば学校という用途とあまりかけ離れていない利用法が、経費も抑えられ、有効であろうと思われま。

早い段階で県との協議を行い、市としての対応を検討します。

ゴミ収集について

質問

年末(29日、30日)のゴミ収集と持ち込みはできないか。

答弁 生活環境部長

各町の中心部のみを収集するなど、今後、関係団体と協議・検討し、サービス向上を図りたい。

12月29日、30日のゴミの持ち込み処理は、今後の処理計画・委託契約など内容の修正を行い、ゴミの持ち込みができるように関係団体と協議します。

安藤 豊作



なぜ急ぐ?

一市一消防本部制

質問

全国で小規模の消防本部が多いことから、今、広域での消防本部体制が強く求められている。そうした状況の中、なぜ今、一市一消防本部体制を急ぐのか。また、予算規模は。

答弁 消防長

県は、平成9年に広域再編パターンを示し、平成16年中には、さらなる広域化に向けた見直しを行うとしていました。

現段階では、その案も示されており、今後の見直しも立っていない状況です。現在、緒方・朝地地域では、自治体として、最も重大な市民の財産に関わる消防・救急業務を竹田市に委託しています。

危機管理体制や消防力の平準化の観点から、早急な対策が必要だと考えています。

平成19年4月からの一市一消防本部体制は、一署三分署とし、85名体制で、予算規模は7億4000万円の見込みです。

消防団の

組織再編は

質問

消防団の課題と組織の見直しについての考えは。

答弁 総務部長

連合制については、暫定的な制度であり、本来一市一団制が望ましい。

国については、消防計画の策定とともに、定数および組織の見直しが喫緊の課題となっています。



“かしら〜、右っ!!”リリしい姿の連合消防団(市出初式・大原グラウンド)